

■ 第4回 新潟市地域福祉計画策定・推進委員会

日時：平成26年5月8日（木）午後2時～

場所：新潟市役所本館3階 対策室3

（事務局）

それでは、予定のお時間となりましたので、一部の方がまだお見えになっていませんが、議事をお願いしたいと思います。丸田委員長、お願いいたします。

（丸田委員長）

それでは、第4回新潟市地域福祉計画策定・推進委員会を開会いたします。

本日の議題は、基本理念ならびに基本目標についてです。今日の委員会で、基本理念と基本目標についての委員の方々の了解を頂ければと考えておりますので、ご協力を頂きたいと思えます。

今日の議題は今ほど申し上げました。お手元のところには次第をめぐって頂きまして資料1「基本理念・基本目標の修正案について」があります。それから今日、私のほうで配付させて頂きました「基本理念の検討（学識委員）」がございます。

まず、私のほうから先回宿題を頂きましたように、松原先生それから関谷先生のお力を借りながら、いったん案を検討してみたいということで宿題を頂いておりましたので、どのようなプロセスで検討したかということについてプロセスのところをご説明させて頂いて、その上で基本理念の審議に入らせて頂きたいと思えます。

黄色のペーパーをご覧ください。1番のところは事務局案であります。3つに分解をしてみました。「だれもが」というのは、（対象）を指しているのかなと。それから、「安心して暮らせるように」というのは、（目的・価値）を含めたところかなと理解いたしました。「地域で支え合うまちづくり」というのは（目指す姿）を指しているのであろうとして、いったん受け止めさせて頂きました。

では、どのような視点で検討したかということ、繰り返しになりますが、事務局案は「対象」、「目的（価値）」、「目指す姿」という3つの要素で構成されていると理解いたしました。

それに対しまして、「（市民の）主体性」、あるいは「（市民の）価値観」、それから「（未来の）目指す姿」をもう少し明確化できないだろうか検討させて頂きました。

3番、これまでの委員会の中で事務局案に対して各委員から出された意見を簡単に取り出してみました。一つは、「わたしたち市民が」又は「市民一人ひとりが」という意見があったと思えます。これに関しては、市民の主体性を明確にしたほうがよいのではないかという意味合

いでの意見と受け止めさせて頂きました。

それから、市民の価値観に関する意見といたしましては、「生き生きと」という言葉の使い方、あるいは「心豊かに」という使い方が意見として出されたと理解しております。

それから、3つ目の丸です。目指す姿に関する意見としては、「福祉」という言葉を用いて、「福祉のまち」という表現があってもよいのではないかと受け止めさせて頂きました。

それでは、これらを踏まえてどのように検討したかという、対象については「だれもが」という表現、あるいは表記をすることについては異論が生まれませんでした。それから、目的について「安心して暮らせるように」という目的についても、大きな異論はありませんでした。価値について、どのように盛り込もうかという意見の交換の中で、「生き生きと」あるいは「心豊かに」という意見が委員の中からあったことについては、これはきちんと受け止めようではないかということも話し合いました。それから、目指す姿につきましては、事務局案の「地域で支え合うまちづくり」、あるいは委員から一部分頂きました「福祉の都市（まち）」ということを大事にした「福祉の都市（まち）「にいがた」」という目指す姿があってもよいのではないかと検討させて頂きました。最後であります、やはり市民の主体性については、新潟のオリジナリティとして大事にしたいということになりまして、では具体的にどのような表現の仕方が良いのかという検討の中で、「みんなで創（つく）ろう」という表現、表記の仕方が検討されました。

これらを結び付けて、どのように案を整えたかとなりますと、事務局で用意して頂いた資料1を確認頂きたいと思えます。「みんなで創（つく）ろう」という市民の主体性を市民に対する呼びかけ、市民に対するメッセージということで「みんなでつくりましょう」という表現を最初に持ってこよう。「だれもが心豊かに暮らすことができる」、あるいは「心豊かに暮らせる」でも構わないかと思えますが、「暮らすことができる」、あるいは「心豊かに暮らせる日本一の福祉の都市（まち）」、それに代わる表現としては、「みんなで創（つく）ろう だれもが心豊かに暮らすことができる」あるいは「暮らせる 地域で支え合う都市（まち）」このような案があってもよろしいのではないかと学識のほうでは整えさせて頂きました。

ここからが大事な提案でありまして、これを対案にしたいという提案ではありません。先回も事務局案が良いのではないかという意見もありましたので、今日の議論の中で、このような意見を付すことが適当であれば若干の修正を頂きながら、委員会における審議の中で事務局案については概ね了解をするけれども、審議の中で、このような意見があったことを付すという形で取りまとめていくまとめ方もあるかなと思えますので、その辺も含めて是非ご議論を頂きたいと思えます。

なぜかといいますと、最後に事務局からコメントがあろうかと思えますが、この委員会の中

で審議した基本理念が、そのまま市の行政において基本理念としてジャッジされる場合もあるかと思いますが、庁内における判断の手続きがあらうかと思いますが。それから、各区との調整も場合によってはあらうかと思いますが。そうしますと、この委員会で一定の議論をした結論が庁内における調整において修正をされることもあり得るのではないかと理解しております。そういう観点から、事務局案を正案とし、委員会の中で付された意見として、「このような委員会の中で審議をされた基本理念としては、このような意見があった」という取り扱いがあってもよろしいかなという意味合いを含めて説明させて頂きました。説明についてはご理解頂けますでしょうか。

それでは、質問・意見を頂きながら、基本理念を合意して参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

関谷先生、補足がありましたらお願いたします。

(関谷委員)

十分でございます。

(丸田委員長)

それでは、委員の皆様よろしくお願いたします。

日本語の表記、表現ですが「暮らせる」ということも日本語ですよね。「暮らすことができる」、これも日本語であります、微妙な違いがあらうかと思いますが、そういう表現の仕方についても、ぜひ意見を頂きたいと思います。

そのあとの基本目標のところも事務局のほうで「暮らせる」という表現を「暮らすことができる」という表現に、いったん直して頂いてありますが、その妥当性もぜひご議論頂きたいと思っています。

(久住委員)

目指す姿で、「日本一」というのは非常にいいのですけれども、なんか大きすぎるような気がするけれどもね。目指すのは日本一は本当に賛成する。

(丸田委員長)

そうなのです。すでに新潟市は福祉の領域においては、日本一の位置付けにある分野もあるのです。それから目指している、例えば「日本一子育てにやさしいまち」という分野別ではそういう理念もございますので、その辺も参考にして頂きながら、ぜひご意見を。

(関谷委員)

今の時代、個性化の時代でオンリーワンの時代と言われていきますので、いわゆる「新潟ならでは」というものを目指すということであるならば、「日本一」を掲げることも大きな話ではないという見方もあるかもしれません。

(丸田委員長)

そのような補足を頂きました。

(石橋委員)

「日本一」という縛りを付けるとやらなければならないという行政に対する大変な影響力があると言っていいのかなと思うのですけれども、新潟市民としてはちょっと。さっき久住さんが言われたように、あまり、わっと出ない市民性からいうと、何がと言われそうな気がしないではないのですが、とても分かりやすく整理して示して頂いて、とてもよかったなと思うのです。

5番目の「修正案又は対案」というのがありますが、これはすごく総じて表しているのかなというのと、どうしても政令市で県庁所在地が同じということで、「新潟」というと県レベルと思われがちなのですが、あえて「にいがた」を打ち出すという意味で、ぽんと出したほうがインパクトも強くて分かりやすいのかなと。そこが付いたことでより明確になるのかなというイメージを持たせて頂きました。

あとは、「暮らすことができる」というと、ちょっと言い回しが。単純に「暮らせる」のほうが分かりやすいのかなとは思いますが。

(丸田委員長)

厳密に言うと「暮らすことができる」というのは、現在必ずしもそうではなくて、やはり「努力をして」という意味合いもあるのでしょうか。「暮らせる」ということになると、一定の状態を指しているという。その辺、国語的にどのように捉えればいいのか。

(関谷委員)

厳密に言えるかどうか分からないのですけれども、新潟の市民の意識として「暮らす」という部分に力を入れるか、あるいは「暮らせる」ということは環境が整っていて、ここの中で一つの生活ができると。どちらを強調するかどうかと。要するに、しなければいけないと思うと環境を整えて日本一を目指そうということになるのですが、一人ひとりの意識ということで、それが結集されて新潟のオリジナリティが生まれるならば、仮に「日本一」としたとしても、それは要するに目標であって、個々人の意識だということ。そうすると、「暮らせる」という主体性でいったほうがいいのかもかもしれません。

(丸田委員長)

そうかもしれませんね。この辺は人生のベテランが何人かいらっしゃいますので、三國委員さん、ぜひご意見を頂ければ。

(三國委員)

「福祉」というのは私が提案したのですけれども、「福祉」を入れておくといいですね。

これはなるほどな、と浮かぶような気がします。「日本一」というのはどうかな。「日本一」ではないです、新潟はまだ。「目指す」ならいいけど。まだまだ県内で優秀な都市がありますから、小さくても。まだ、目指すならいいとしてもね、「暮らすことができる福祉の都市（まち）」と。「まちづくり」はいいですよ。

（橋本委員）

私も「日本一」は取ったほうがいいと思います。

（三國委員）

まだまだね。

（本村委員）

「日本一」を取るのだったら、「都市（まち）」の後ろに私は「にいがた」を付けてほしい。「にいがた」を外すことになると、新潟のオリジナリティが薄れちゃうかなと。「にいがた」って好きなのですよ、この言葉が。個人的な意見を言ってすみません。

（三國委員）

カラオケの歌でも「にいがた」が付くのが多いですよ。

（橋本委員）

「日本一」はちょっと。

（丸田委員長）

現場の方、いかがですか。

（宇治委員）

黄色い紙のがいい。やさしく受け止めしやすい。

（丸田委員長）

黄色の紙は私が打ち間違えまして、「だれもが心豊かに暮らせる福祉の都市（まち）「にいがた」ということになるのでしょうか。「安心して」「生き生き」を取ってということになるのでしょうか。あるいは、「心豊かな」の前に「安心して心豊かに」という、二つの要素を入れる方法もあろうかと思えます。

（本村委員）

私も、そんなに抵抗を受けないのですけれども、というのは一番最初に「みんなで創（つく）ろう」というのがかなり効いていますので、これがぐっと効いて入っていますので、「日本一」というのは。

（三國委員）

県ナンバーワンにも。

（石橋委員）

ちょっとお聞きしたいのですけれども、「福祉の都市（まち）」の「都市」というのは、これから未来を都市づくりという意味で込められていると思うのです。こういう場合の「福祉の都市（まち）」と言ったときの、未来に向けてのまちづくりって、やっぱり「福祉の都市（まち）」という言い方がいいのですか。全体を考えた場合に「福祉の都市（まち）」という言い方がいいのかどうか、ちょっとよく分からないのですが。

（丸田委員長）

あえて三國委員の意見を頂いてつけたのは、この計画自体が、いわゆる総合計画のもとで都市計画も含めたまちづくりという計画ではなくて、やはり社会福祉、地域福祉と言っていますが、正確に言うと法律上は地域における社会福祉というのが法律上の解釈ですので、その計画ということになると、やっぱり福祉という言葉を用いることも妥当性があるかなということで、そこは少し狭い意味で使わせて頂きました。

（橋本委員）

「日本一の」というのを入れるか入れないかをまず先に。

（三國委員）

「福祉の都市（まち）「にいがた」」というのでいいのではないかな。

（丸田委員長）

ここでは、やっぱり事務局からひとことコメントを頂いて整えられればと思いますが。

（事務局）

委員の皆さんの意見ですので尊重したいと思います。ここで今、委員長から「福祉の都市（まち）」というものをある程度狭い範囲でという話がありましたけれども、ここで「日本一」を付けてしまうと、言葉として外へ出ていったときに非常に大きなものになってしまっていて、事務方の懸念としては総合計画とかぶってこないかなという。

（丸田委員長）

そうですね。総合計画との関係性が。

（事務局）

この福祉が非常に広く受け取れるものなので、先ほど話がありましたように「子育て」という分野での日本一の都市とかと限定的に使うのであれば非常に分かりやすいのですけれども、こうした会議に出ていないときに、この言葉が出てくると非常に大きな福祉として捉えられる可能性がありますので、総合計画の都市像にかぶってきそうなイメージはあります。

（丸田委員長）

そうですね。

（宇治委員）

よく考えてみたら、あまり「日本一の福祉の都市（まち）」というのは、あまり抵抗はなかったのですけれども、でも新潟人らしい謙虚さを考えると、「福祉の都市（まち）「にいがた」というのが、ちょっとしっくりくるかなと。本当は日本一になりたいのだけれども、ちょっと謙虚さを。

（三國委員）

福祉の中で分類して、保育園が私は専門ですけれども、保育園が日本一だと。これは全国の人はみんな知っていますよね。「村の子どもと良寛様は日暮れ忘れてかくれんぼ」というのだから、確かに保育は日本一ですよ、新潟は。これは分かるのです。福祉全体となると、これはまたね。軽く「福祉の都市（まち）「にいがた」と。

（本村委員）

福祉というのはどう言ったらいいのでしょうかね、目的概念でいくと全ての人々が幸せに生きることへの願いとか、それに対する働きのようなものだと思いますので、そういう観点から考えると、ここに「日本一」がぽこんと入るというよりも、「にいがた」というのを後ろに付けて頂いたほうがおさまりとしてはいいかなと。

（橋本委員）

だいたい、「福祉」を入れたことってすごいことでしょう。

（事務局）

先ほど委員長のほうから話がありましたけれども、新潟市は現在、次期総合計画の策定作業を進めているところでして、そうした中にも都市像というものが出てきますけれども、そういった中で福祉分野的に使う、市民すべての福祉ということではないのですけれども、総合計画で分野別にやったときの福祉政策にかぶってくる可能性が非常に高い。そうしますと、この会議を設定したときに、ここでは地域福祉計画における理念であるとか基本目標といったものを事務局から提案させて頂いて、それに対して意見を頂きたいという話ですので地域福祉計画という部分がやはり強い、先ほど言いましたように「日本一の福祉」という言葉だけを捉えたときには、そういった心配はありますね。事務局としては。

（丸田委員長）

そろそろ整えたいと思いますが、井上委員さん、いかがでしょうか。

（井上委員）

「日本一」というのは結局位置付けだとおっしゃったので、それだったらかえて「にいがた」を出したほうがいいのではないかと。

（橋本委員）

「都市（まち）」って入れるのは、何か柔らかくていいですよ。

(石橋委員)

政令市ということもありますので、中核都市を担うということの「都市」って、単なる「まち」じゃなくてというので、ただ総合計画の中で、こういう言い方はしてこないでしょうか。福祉の都市づくりみたいなものは総合福祉とダブリそうな気がしないではないのですけれども。

(事務局)

総合計画でも、いろいろな使い方がありますので、やはりこういう使い方もありますね「都市」と書いて「まち」という読ませ方をすることもあります。これは個人的な感想になりますけれども、この場ではやはり「まち」というのが適当なのかなとは感じております。

(丸田委員長)

ほかに意見はいかがでしょうか。概ね合意できそうなのですが、今度は位置付けなのですが、事務局案で概ね了解をし、このような意見があったというまとめ方、整え方がありません。それから、両論併記という整え方もあります。それから、事務局案に対して、この委員会で修正を加えた案を委員会の案として、修正案として結論を出すというやり方がありますが、この辺はいかがでしょうか。最初の説明は、あくまでも事務局の案に対して敬意を表し、委員会でこのような意見がありましたという意見の付し方。二つ目は両論併記。三つ目のレベルが本当に基本理念の差し替え、全面修正という取り扱いになろうかと思いますが、この辺は事務局、コメントございますか。

(事務局)

提案させて頂いたとき、こちらの考え方としては地域福祉計画というは8区で先行して策定されていたということ。それが今年度改定の時期を迎えている。そうした中で、改定作業の邪魔をしないのだという、要は先行している区の考え方をまず尊重したいのだということで、当初の説明があったと思うのですけれども、3案あるという話でしたけれども、それは委員会の中でどういうふうに決めて頂いても結構ですけれども、区とやり取りした中で、区のほうが「うちのほうの障壁になる」といったことがあれば、そこの中での調整というのはやらせて頂きたいと考えておりますので、ここでの議論の進め方としては特に言うことはありません。

(丸田委員長)

そうですか。さて、どうでしょうか。

(三國委員)

三案で決めたらどうですか。立派な事務局の課長もいらっしゃることだし。あとは行政の中の区の調整はそれでうまくいくわけですから。

(丸田委員長)

一定の任務を与えられている委員会でありますから、委員会としての議論の経過だけ事務局にお伝えをして、「あとはお任せをします」というのは少し委員会としては弱腰かなと。そういう意味で、委員会の委員における総意が何であるかということは議事録上も必要かと思いますので、ぜひここはご協力を。

(本村委員)

私は事務局案は、これ8区の中からうまくまとめてつくってくださったと思うのですが、それを過去3回の話の中で話し合ってきたのは市民の主体性であるとか、目指す姿とか、そういうものがもう少し欠けているという意見もありましたので、それを入れさせて頂いて対案として出すということがありますので、事務局案は事務局案としてあれですけれども、対案として「こういうふうにつくりましたよ」というものを出して頂いて。

(丸田委員長)

委員会として、このような対案を。

(本村委員)

委員会として、このような対案を考えましたということを出させて頂くと、事務局案に対してと思いますけれども。

(丸田委員長)

基本理念に関しては、このような意見があったという意見の付し方ではなくて、「事務局案に対する委員会の対案として、このような取りまとめ方をしました」ということで皆さんのご了解を頂いたということによろしいでしょうか。

(異議なし)

(丸田委員長)

それから、細かな表記に関しては、これは事務局にお任せせざるを得ませんのでよろしくお願いしたいと思います。そうすると、「日本一」は取るということですね。

確認をいたしますが、合意を頂いた案は「みんなで創(つく)ろう だれもが 心豊かに暮らせる 福祉の都市(まち)「にいがた」」でよろしいでしょうか。

(異議なし)

(丸田委員長)

それでは、事務局よろしくお願いたします。

(事務局)

ありがとうございました。

(丸田委員長)

それでは、次にまいりたいと思います。基本目標についてであります。基本目標の修正案について、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、基本目標修正案について説明させていただきます。

今までの議論を踏まえて変更させて頂きました。お配りした資料をご覧になって頂きたいと思いますが、基本目標1につきましては、「地域で支えあい、助けあう地域づくり」を「私たちが支えあい」ということで、「地域で」を「私たちが」に変更させて頂きました。これは考え方としては、今まで同じ言葉が2回続くのはどうかということとか、参加者意識が持てるようにということ。もしくは「ひとりひとり」とか、ほかに意見がありましたが、それだと強すぎるかという意見。もしくは、住民主体の用語を入れるべきといった意見の中で、「地域で」を「私たちが」に替えさせて頂いたということでございます。

次に、基本目標2につきましては、基本的には修正を行わないと。お配りしたペーパーには先ほど委員長からも話がありましたが、「暮らせる」を「暮らすことができる」という用語の使い方としてどうかという話がありましたので、修正案として提案しましたけれども、今ほど基本理念のところ「暮らせる」ということですので、当初案のとおりで提案させて頂きたいと考えています。

次に、基本目標3につきましては、「健康でいきいき暮らせる地域づくり」というもの、この部分について「健康」という言葉が非常に強すぎるという言葉がありました。事務局としては決して無病息災とか、そういったことでの健康という意味ではなくて、ただ、在宅で生活するのに不自由のない程度の健康という。不自由というとおかしいのですけれども、自分で在宅でできる程度ということだったので、強すぎるということでしたので、ここでは弱めて「健やかで」ということで。いろいろな「多様な」という意見もありましたけれども、ちょっと良い言葉が浮かばなかったということで、ここは「健康」を直させて頂いて、次の「暮らせる」については、基本目標2と同じです。ここでは、「健やかでいきいきと暮らせる地域づくり」ということで提案させていただきます。

基本目標4につきましては、言葉が堅いとか、分かりにくいというものがありません。ここで大事なのはネットワークづくりかなという中で修正案としては、「みんなでつなげる地域づくり」ということで、つなげるネットワークの中には、ひとりひとりのネットワークもございますし、関係機関のネットワークもあります。言葉を「みんなでつなげる」と表現してはどう

かということで提案させていただきます。修正案の考え方については以上でございます。意見等、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(丸田委員長)

ただいまの課長さんからの説明を受けまして、基本目標を修正する、しないについて意見を頂きたいと思ひます。基本目標1から4までお目通しを頂きながら一つ一つ確認をして参りたいと思ひますので、基本目標1についてご意見がありましたらお願ひいたします。

(関谷委員)

素朴な印象なのですが、基本目標1と基本目標4がまっさらな目で見たときに、あまり違ひがない。どう違ひのかよく分からないのが、気になります。ネットワークということは分かるのですが、背景を知らないで見ると基本目標1と基本目標4は具体的にどう違ひなのか。手段と結果なのか。

(丸田委員長)

基本目標4のところはぜひ、少し時間をとって議論を頂きたいと思っております。以前も関谷先生からご指摘があった点を、情報をどうシェアしていくか大変重要な要素が、なかなか基本目標4からは読み取れないところがありますので、そこは後ほど基本目標4で議論をいたしますが、まずは基本目標1のところではいかがでしょうか。基本目標4を修正する方向で議論をしたいと思っております。

(橋本委員)

基本目標4を修正することになれば、基本目標1から3はこれでよいのではないのでしょうか。事務局の修正案でOKで。

(丸田委員長)

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

(三國委員)

これは基本目標ですから、このあとにいろいろ細かいものを事務局が付けるわけですね。ということは、地域で支えることができない難しいので助け合うのだよという裏の話があるわけですね。私は連続28年町内会長をやりました。できないのです、なかなか。それにはどうするかという事務局の細則みたいなものをつくるわけですね。

(事務局)

そうですね、解説的な。

(三國委員)

解説ね。ということは、できないから基本目標で支え助け合う地域づくりをしましょうよということになるわけですが、これは本当に民生委員さんもそうですね、町内会長をやり

まして、5万人の連合町内会長もやりました。なかなか地域づくりは難しいです。難しいからこういうものが出てくるので、その中の細則的に、「最初はいいさつからしましょう」とか、いろいろ「子どもたちと一緒にボランティア活動しましょう」とか、祭りは子ども中心に、氏神様ではなくてやりましょうとかというのが出てくるので、そういうところで私が始まったときに学童保育も始まったのです。それから、町内会の公園の清掃も始まりました。昔は公園緑地化だけだったけれども、今度は地域づくりのためにボランティアをしましょうということになってきたので、そういうことを体験、経験していますが細則も分かりやすいものをつくってもらって。お願いします。

(丸田委員長)

いかがでしょうか。主体が「私たちが」という言い表し方になっております。それに対して基本理念のところは「みんなで」とか「だれもが」ということで、同じ主体を表す表現においても少しトーンを変えてありますが、その中で基本目標1のところは「私たちが」ということで主体性がより明確になった言い表し方になっていきますので、その辺で意見がありましたら。

(橋本委員)

よろしいと思います。

(丸田委員長)

そうですね。副委員長いかがですか。

(本村委員)

いいと思います。

(丸田委員長)

そうですね。それでは、基本目標2はいかがでしょう。「安心・安全」は点になりますでしょうか、中ポチになりますでしょうか。

(橋本委員)

中ポチのほうがいいでしょうかね、点よりも。

(事務局)

一般的には中ポチです。

(丸田委員長)

上位計画との関係の中で調整をお願いできればと思います。それでは、基本目標2についてもご理解頂けますでしょうか。

(異議なし)

(丸田委員長)

基本目標3はいかがでしょうか。異論はないかと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

(丸田委員長)

ありがとうございました。それでは、基本目標4で少し時間を取りたいと思いますので、まずは関谷先生から。こんなふうというアイデアがありましたら。

(関谷委員)

「ネットワーク」ということでいうと、必ずしも困ったときに市民だけが助けるだけじゃないという部分が出ていけばいいかなと。そのときは地域をまたいででもつながって結果的に生きていくことができるというニュアンスかどうか。どう書いたらいいかというアイデアがあればいいのですけれども。

(丸田委員長)

「情報」の取り扱いはどうでしょうか。大事なところ。

(石橋委員)

例えば、「情報・ネットワーク」でつなげるのは。ちょっとキャッチコピーみたいですが、うまくつなげるのは意外と難しいですね。

(川崎委員)

最後はみんな「地域づくり」になっているのですけれども、基本目標4だけを変えるというか「ネットワークづくり」にするのはどうなのですか。

(丸田委員長)

それは分かりやすいですね。

(川崎委員)

「暮らしを支えるネットワークづくり」。前半がちょっと違う良い言葉があれば。

(丸田委員長)

その場合は、先ほど解説のところは話題に出ましたけれども、ここで言う「ネットワーク」はただ単に人と人のネットワークだけではなくて、「制度と人」であったり「情報と人」であったりという意味を持つのですよという説明は要るでしょうね。

(植木委員)

新潟は高齢者世帯が全国でもトップクラスのようです。ところが、高齢者のボランティアは全国でも最下位のようなのです。そういう高齢者からボランティアでもいいですから力を引き

出したいところなので、ここでは参加者意識を特に呼び掛けたいと思うのです。だから、「私たち」とか「みんなが」という言葉も入って、北区がまとめたものには「地域福祉の担い手を育てます」という言葉がありますけれども、例えば良い案がまだ出ていないのですけれども、「私たちが みんなで 地域福祉の担い手を育て 応援します」というニュアンスに持っていていいかなと思うのですが、ちょっとネットワークとか全部ひっくるめたようなニュアンスにもなるかなと思うのですが。

(丸田委員長)

なるほど。お手元にメモをして頂いて、後ほど、もう一回言葉にして頂けるとありがたいのですが。

(井上委員)

今、高齢者の話が出たのですけれども、ここでは「みんな」と書いてあるので高齢者だけを特別扱いしないで「みんな」なのだと。地域の住民みんななのだと私は考えたいと思うので、あんまり特定しないほうが。

(植木委員)

言葉には高齢者は入れる必要はないかと思うのです。「みんな」で結構だと思いますが、ただ背景として高齢者の活用があっていいかなと。私は現場を知らないのですけれども、マンパワーが不足しているのではないかと思うのですが、ボランティアをもっともっと活用できたらという面があるのではないかと思うのですが。いかがでしょうか、現場をご存じの方から伺いたいのですけれども。

(丸田委員長)

北区の場合は明らかに人材育成が区の課題で、盛り込んだわけですが、ここは8区全体の目標ですから担い手づくりということが全市の課題として認識があれば議論できるかと思えますし、区の中でもデコボコがあるということになると。

(本村委員)

前もお話させて頂いたときに、西区は結構いろいろなところからの人たちが集まっていってしゃるエリアだったものですから、育成していくというのは、なかなかつながりがなかったものですから育ちにくかった。南区とか西蒲区とか比較的伝統的に地域、組織ができあがっているところは、うまくきちんとそういう人たちが育ってきている。そういう先輩が育ててきているという伝統があったものですから、そういう意味では先回、区によってバラツキがあるのではないですかという私に対するご意見を頂いたと思うのですけれども、西区としてはそういうバラツキを感じておりました。育成の困難さを感じておりましたという意見だったので、区によって違うのでしょうかね。

(丸田委員長)

その辺、委員の方々の認識はいかがでしょうか。議論をするポイントとしては「ネットワーク」の意味合いだと思うのです。「ネット」の中には担い手である人づくりも入っているし、それから、その地域、その地域にマッチした仕組みづくりも入っているかもしれませんし、あるいは情報がちゃんとシェアできる仕組みづくりも入っているかもしれませんので、この「ネットワークづくり」の要素はどのような要素で構成されているのか説明がつけば、これでもいいのかなと思います。

(本村委員)

今説明して下さった内容を聞くと非常にすっきりしますよね。こういうものをどこかには書けないものなのですか。そこまで読んでくれればいいのですけれどもね、この「ネットワーク」というところをね。

(事務局)

参考として聞いて頂ければいいのですけれども、今お話がありました高齢者の人材をどう社会に活かせるかということについては、これは新潟市としても大きな課題として捉えていただいて、地域包括ケアシステムをつくっていく中では当然欠かせないものだと考えており、次期総合計画の中でも、その部分は非常に大きな課題として捉えています。

ただ、そうしたものを個人として活用を図るのか、例えばコミュニティ協議会であったり民生委員さんであったり自治会であったり、そういった地域の中での組織として活かして頂くのかということで考える時期にきているのかなと。要するに地域活動の中で一人一人がいろいろなボランティアをやったから何とかサービスがうまく収まるのかなという、そうではないところに来はじめているのかなと。そういったものが地域包括ケアシステムの中では当然検討されて、体制として整備されていくのだろうと思っています。

そうした中で、私どもは「地域」という言葉について、下のほうに、「単にエリアを指すだけではなくて住民とか環境を含めて」という中で、地域づくりの中には当然そういった組織づくりであるとか担い手になる部分は、当然その中に含まれるのだという認識がありまして、先ほど言いましたように総合計画にもそういった部分は多分書き込まれてくるのでしようし、当然我々も解説の中ではそういった部分はつけていかなければいけないということは言えると思います。

ただ、私ども4つの基本目標の中ですべて「地域づくり」と言っていますので、どこかの部分でだけ「人材を」ということは基本的には今までは考えていなかったというのが、一番下の注意書きの意味と考えています。

(丸田委員長)

今そのような説明がありました、いかがでしょうか。

(久住委員)

私は基本目標1の「支えあい、助けあう」というのと、基本目標4の「つなげる」という意味がちよっと違うのでしようけれども、ここがはっきりと「つなげる」のほうはもっと広いことでしょうか。

(事務局)

基本目標1は割と「人」に着目した言葉の使い方になろうかと思えますし、基本目標4はいわゆる情報も含めた組織、包括支援センターであったり、そのほかにもいろいろな福祉施設があるかと思えます。そういったものが社会に出ていく情報として、子育て支援センターであるとか。基本目標4にはそっちの視点もかなり入っているのかなと。

(久住委員)

そこを表す言葉があれば。

(石橋委員)

「暮らしを支える人・環境・仕組みづくり」みたいな。皆さんのをまとめると表現しづらいので。

(丸田委員長)

ただ今の事務局の説明からすると、この「地域づくり」の「地域」の中には、実は「人づくり」や「ネットワーク」も入っているのだという前提で議論をしていくと「地域づくり」という表現を変える、変えないというのはかなり難しくなりますし、それを承知の上でなおかつ基本目標4のところは「地域づくり」ではなくて、「ネットワークづくり」としたいということで議論をするのか。その辺も含めていかがでしょうか。

(三國委員)

実行しなければならないのですが、実行するには行政が中心になって情報共有をやってくださるのか。何に任せるとのことをはっきりしないと、この文言は出てこないのです。私の関係からいきますと、各部門ごとに全部集めて28年間やってきたわけです。とにかく新潟県の一人暮らし、身寄りのない人、それから生活保護をもらっている方々。これは県下の半分が新潟市なのです。県下の半分、統計からはっきり出ています。そして、半分がまた東区と中央区なのです。その東区中心のところでしたからよく分かるのですが、亡くなるというのは大きな問題なのですが、市営住宅で亡くなったらどうです、誰も発見しないのですよ。発見したのは隣のうちなのです。臭いがすると、1週間も。ウジが出たと。白骨に近いのです。新聞に出ていました。だから、行政が中心になってまとめてやるのだということは大賛成なのです。いかがでしょうか。

(事務局)

今、一人暮らしという話が事例として出ましたけれども、そういったものについてはすでに取り組んでいる部分はかなりありまして、新潟日報販売店との見守り協定であるとか、配達をしているときに異変があったときや、それから水道とか電気で滞納があり、異変が認められるときは情報を提供して頂くとか、そういったネットワークづくりというのは少し前からやっています、異変があったときに、そういう連絡が入るような形は今つくりつつあります。

(三國委員)

一人暮らしは新聞取りませんよ。

(事務局)

例えば電気とか水道とか、そういったそのほかの日常地域で営業活動をしているような事業所とのネットワークというのも、例えばヤクルトさんであるとか。

(三國委員)

そんな手ぬるいのではダメだな。責任取る者がいないのですから。ウジがわいて柱まで取り替えたのですよ。市営住宅ですよ、それが。そういう問題があるのを私は体験しているわけです。

(事務局)

81万市民全てにもれなく目が届くような体制になっているかと言われると、確かにいろいろな方がいますので、全てが大丈夫とは言えないのですけれども、そうした漏れを無くするような取り組みというのはしています。夏場における地域への保健師の一人暮らしへの訪問活動もしておりますし。そういったことが今後、課題が出てくるのであれば、もしくは予め分かるのであれば、そういった課題を課題ではなくするためのことは、当然していかなければいけないという意味でのネットワークづくりというのはあろうかと思えます。

また、2回目にインターネットとか、そういったものを使った中でのいろいろな情報の交換。そういったものに対して市のホームページとかを使って流すということ、今は十分ではないかもしれませんが、今後はそういうものを力を入れてやっていく形になろうかと思えますし、実は市のホームページは、画面だけではなくて音声でもわかるようになっているという、そういった情報を提供するための工夫を市としてもしていますし、包括支援センター、子育て支援センターにもそういった情報がきちんと流れる仕組みはできているのだろうと。ただ、今これで十分かという、いろいろな課題が出てきますので、そういったものを見ながらそれぞれのところで対応していく形になっていくのだろうと思えます。

そういった意味では、ネットワークづくりというのは決して絵に描いた餅にするということはないと考えております。

(三國委員)

了解しました。

(丸田委員長)

関谷先生、もう一回問題提起していいですか。私が発言したいのは、「みんなでつなげる地域づくり」。「地域づくり」のところにはネットワークが入っているという理解を前提にしたときに、「みんなで」の次に特にネットワークに焦点を当てた重要な要素を例示的に2つくらい織り込めるといいのかなど。具体的に言いますと「みんなで情報と何々をつなげる地域づくり」とか、すべてそこにネットワークを構成する要素を全部織り込むことは不可能ですので、どうしてもネットワークづくりのときに外せない要素として、「情報」はどうしても入れたいなど。もう一つそこに要素を入れるとすれば何かアイディアはありませんでしょうか。「人」なのか「制度」でもないでしょうし。

(石橋委員)

「人と情報をつなげるネットワーク」みたいな感じなのでしょうかね。「ネットワークづくり」みたいな感じなのでしょうかね。

(丸田委員長)

要素の一つは「情報」、もう一つは「人」という考え方もありますよね。

(石橋委員)

それをつなげていくという、それをネットワークかと。

(丸田委員長)

そうであれば要素の中に「人」が入ってきますから、そこであんまり要素を織り込み過ぎちゃって、「人、もの、こと」とか、そういうふうに言ってしまうとちょっと暑苦しいかなど。

(久住委員)

私の提案ですけれども、「みんなでつなげるネットワークの充実した地域づくり」ではどうか。「充実」は要らないか。「ネットワークのある地域づくり」

(丸田委員長)

なるほど。それも一つの案ですね。「みんなでつなげるネットワークのある地域づくり」「ネットワークの充実した地域づくり」とか。

(植木委員)

「ネットワーク」って一般の人にするっと入る言葉でしょうかね。「地域づくり」の前に例えば「頼れる地域づくり」ぐらいで、ちょっと抽象的過ぎますけれども、キャッチコピーだからそのぐらいで「頼れる」というのは何だということ、あとで細則をつくるのでしょから、そこで盛り込むことができるかなと思うのですが。

(関谷委員)

蒸し返しになるのですけれども、「暮らしを支える」という言葉を「暮らしを見守る」にしてみると若干ネットワークが。何の手段で見守るのかという、いくつかの含みが生まれるかも。

(丸田委員長)

最後は「地域づくり」でよろしいですか。「みんなで暮らしを見守る地域づくり」。「みんな」が付いたほうがいいでしょうか。そうですね、「つなげる」「つながる」という言葉はすでに地域づくりの中に、ネットワークが含まれている意味なのだとということになると。

(橋本委員)

「見守る」の次は「地域づくり」「みんなで暮らしを見守る地域づくり」素敵ですね。

(丸田委員長)

副委員長、ご意見をお願いいたします。

(本村委員)

そうですね、暮らしを見守る。僕は、「サイレント・プア」を見ていて、アウトリーチに非常に引っかかっているのですよ。意見が言いたくても言えない状況の中に沈み込んでいて人たちを、どう発見してニーズを受け止めるか、見逃さないでということになると、「見守る」という落ちがどうも攻めじゃなくて守りに入っていっちゃうような感じがしちゃって、私がそういう意味で、さっき事務局が、みんな「地域づくり」の中にはネットワークだとか、そういうものも全部入っているのだとおっしゃいました。そういうご説明だったと思うのですけれども、その前には必ず「暮らせる」というものが入っているのですね。「暮らせる地域づくり」なのですよ。

そういう意味では、一番最初に挙げられた「みんなで支えるネットワークづくり」というのが、何かスポンと入っちゃって、一番シンプルでいいかなと。また元に戻るような感じなのですけれども、そう思ったのです。

(事務局)

「地域づくり」の説明に力が入ったように受け取られたかもしれませんが、別に4つ「地域づくり」にしなくても構いませんので。そこで、目的がはっきりするのであれば、当初の基本目標4の見直しのところで非常に堅い言葉で分かりづらいという話がありましたので、「ネットワーク」なり入れたほうが分かりやすいということであれば、それはそれで構いません。

(本村委員)

ご高齢の方には馴染みにくい言葉ですかね。カタカナなので。

(橋本委員)

私は、「ネットワーク」という言葉はもうみんな聞いているのではないかと思います。

(石橋委員)

先ほど先生がおっしゃった「見守る」というのと、基本目標1で「支えあい、助けあう」という部分でかなり重複する。その延長線にあるという部分になると似ているので区別がつきづらいのかなというのがありますよね。

(川崎委員)

基本目標1と基本目標4が似ているような感じが今の議論でしていたのですがけれども、基本目標1は「人」を支える「カゴ」、私のイメージでは支える「カゴ」「ネット」というか。基本目標4は、その「カゴ」をつくるための「のりしろ」だったり「接着剤」だったり、そういうイメージが私の中にあって、それで「ネットワークづくり」と言ったのですがけれども、包括も多分接着剤みたいな役割を担っていて、だけど「のり」を付ける「のりしろ」が無くて困っていたりするのでありますが、それは現場ではいろいろなことがあるので、矛盾だらけなのですが、でも、「ネットワークづくり」という言葉がいまひとつであれば、「協力し合える仕組みづくり」というか、「のり」と「のりしろ」みたいな感じのものが入ると、私のイメージでは合うのですが。

(関谷委員)

もう一回確認なのですが、基本目標4は「箱」の話にもなるとおっしゃっていませんでしたか。基本目標1は「人」で。

(事務局)

「箱」というのは、ここで言うと地域包括支援センターであったり、いわゆる情報を扱うところで、いわゆる社会福祉施設も箱物であるところも、そういった情報を発信する機会、例えば子育て支援センターは保育園に併設されてつくっていたり、そういった意味であって、いわゆる入所系とか、そういったものの強い「箱」という意味ではなくて、あくまでも情報を発信するものとしての「箱」という意味です。

(橋本委員)

基本目標4の頭に「情報の共有 みんなで暮らしを支えるネットワークづくり」としたら。ネットワークづくりを出してもいいということなので。

(丸田委員長)

「情報の共有と」「と」を入れてもいいですか。

(橋本委員)

「情報の共有とみんなで暮らしを支えるネットワークづくり」と。

情報をまず共有して、みんなで支え合ってネットワークづくりを広げていこうみたいな、そ

んな感じでいったら、基本目標1、2、3とちょっと変わるかなと。

(丸田委員長)

「情報の共有」をあとに持ってくるといかがでしょうか。例えば、「みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり」とか。「情報の共有と」と言うと、そこが最初にきてしまうと。私も比較的いいなと思って。なぜかという、私は専門職なのですが、どうしても「ネットワーク」という言葉を使うと、やはり「人」のところに着目されてしまって、一番もう一つ重要な要素である「情報の発信」とか「情報」を入れていく、そのところが、まさに支援のところがなかなかイメージされにくいので、「情報」の2文字を使いたいなどは、ずっと思っているのですが、今、橋本委員に助けて頂いたように。

(橋本委員)

本村副委員長さんが、「ネットワークづくり」ではご高齢の方には分かるかなと言われたので、「情報の共有」を入れたら分かりやすいかなと。

(丸田委員長)

そうですね。整えられそうですか。石橋委員、いかがですか。

(石橋委員)

「みんなで支え合う情報の共有とネットワークづくり」というと、わりと分かりやすいのかなと。

(丸田委員長)

特に「情報」を入れたのは、他の政令市にはないと思うので。

(橋本委員)

情報をまず共有するのは大変なのですよ。

(丸田委員長)

いかがですか、改めて。

(宇治委員)

私も「情報」というのが、すごく必要だなと思うのですよ。私たち福祉職では「ネットワークづくり」はよく聞く、よく使う言葉なのですけれども、何か曖昧さがちょっとあるので、そこへ「情報」を入れると。

(丸田委員長)

それでは、いったん基本目標4につきましては、ここから「いったん」を使うのですが、基本目標4については「みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり」ということで、いったん了解を頂いてよろしいでしょうか。

(異議なし)

(丸田委員長)

ありがとうございました。基本理念については、先ほど確認しましたので繰り返しません。

以上で、今日の審議については与えられた任務が終わるのですけれども、本当にこの委員会は、いろいろな人生の先輩からいいコメントを頂いてありがたいなと思います。ここで閉会というわけにまいりませんので、以上で基本理念と基本目標について、いったん委員から了解を頂きましたことについて、事務局からコメントがありまらお願いいたします。

(事務局)

どうもありがとうございました。今日まで意見交換して頂いて、まとめて頂いたものについては、これから先ほど申し上げましたように区のほうに説明し、この委員会で出た意見も踏まえて意見交換したいと思っております。

そうした中で、基本的にはそんなに区の障壁もしくは否定するようなことにはなっていないとは思っておりますが、また区のほうから意見があった場合には、そういったものを踏まえまして本庁としてどう考えるかというのは、対応させて頂きたいと思っております。11月頃には区のほうと意見調整をしまして、そのときには今申し上げましたように解説等も含めまして、改めて状況報告をさせて頂いて、そのところで、最終的なご意見を頂きたいと考えております。もうちょっと膨らんだ内容で解説とか、区の取り組みを載せることができれば一つの例示としてお示ししていくかどうかを考えていきたいと思っておりますので、今後のスケジュールを含めて、そういう形で進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

(事務局)

この委員会としての基本理念、基本目標を固めて頂きまして、大変ありがとうございました。今後、各区のほうでそれぞれの計画づくりを進めてまいります。この委員会については、今一定の結論を出して頂きましたので、11月までしばらくお休みということにさせて頂きまして、次回の開催につきましては、また秋頃に再度日程を調整させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長から、最後に閉会のお言葉をお願いいたします。

(丸田委員長)

改めて委員の皆様には感謝を申し上げます。大変、活発なご意見を頂きました。また、三國委員におかれましては私のほうが自分の知識や経験として持っていないところを、たくさんの方を教えて頂きまして大変ありがとうございました。お陰をもちまして、基本理念ならびに基本目標については今日、合意をすることができました。繰り返しになりますが、重ねてお礼

を申し上げます。このあと、11月頃の委員会を楽しみにいたしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。